

江工会会報

発行所
江 工 会
島根県江津市江津町147
島根県立江津工業高校内
電話(代) 0855-52-2120
郵便番号 〒695-0011

二十一世紀を迎えて

会長 高橋 次郎
(昭和22年建卒)



皆さん二十一世紀の新春を元気で迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

応じける行政システムを確立し、国民主権に基づく政治主導の行政に変わって行きます。

さて平成十六年にインターハイが島根県でも行なわれることとなり、江津工業高校ボート部も皆様の賜物である江津艇庫を中心に活気づくものと思われまします。江工会館も利用が年毎に増加しています。卒業生の皆様のご利用が少ないようですが帰郷等の際お立ち寄り下さい。

八月の江津市ボート大会は昨年からジュニア級の参加を頂き盛大に行われました。

中国一の水族館アクアスに来られましたか、二十世紀末の入館者は一二五万人を突破するという大盛況であります。

どうか今年も江工会の発展に、一層のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げますと共に今年が皆さんにとりまして幸せ多い年でありませうお祈り申し上げます。

激動の二十世紀は前半は三回の軍国主義大戦争等により廃墟と化した日本も、平和と平等のもとに立ち上がり、世界に肩を並べ、一等国となり技術革新もまたたく間に進みましたが、景気が悪く、上昇をみないうちに新世紀を迎えました。

昨年はコンピュータ二〇〇〇年の切替え問題等激動の一年でした。国内外で思いもかけない重大な出来事が起こり、それがそのまま私たちの生活の周辺にまで影響を及ぼして来たそんな一年ではなかったかと思えます。

二十一世紀は国際化、情報化、そして少子高齢化の福祉対策、介護保険の充実、思い切った行財政改革等克服すべき課題は山積しているものであります。二〇〇一年より、一府二十二省庁体制から一府十二省庁体制になる中央省庁等の再編が行なわれ、内閣機能の強化、行政のスリム化・透明化に展開、複雑化・高度化する政策課題に対



5年に1度開催される「ホーランエー」(写真提供：江津市)

心のこもった「物づくり」を！

校長 神田 義 克



江工会会員の皆様には新しい世紀を健やかに迎えることと拝察いたします。

新しい年のスタートにあたり、皆様の益々のご隆盛を衷心よりお慶び申し上げます。

また、本校の教育に多大なご支援を賜っておりますこと厚くお礼申し上げます。

近年故郷江津市近辺では、積雪があまり無い年が続いていました。昨シーズンは二度の大雪にみ

ている。

星形は、山腹の雑木林を円形に伐採し、その中に市の花・ツツジ約千本を「☆」の形に植栽したもの。伐採したところに雪が積もり、市街地から眺めると白い円の中にツツジの星形が浮かび上がる格好になった。

星高山の星形は、春はツツジの花、夏はイルミネーションで市民を楽しませている。

『雪の星』は降雪量の少ない江津にとつてシーズンに数度もない自然の贈り物。遠くからでもよく映える。」と掲載され、民家の屋根の遙か遠方に大きくくつきりと浮かんだ星形の写真が添えられている。

近年の卒業生の皆様は、何度か目にしたことのある懐かしい風景ではないかと思えます。

このように一見穏やかな田舎の情景もありますが、年末には浜田市街で有職少年多数によるパトカーの襲撃事件が発生しました。

昨年より頻繁にマスメディアで報道されている少年たちによる『心の痛み』犯罪が続いていることは先刻ご承知の通りです。

これらのことは、最初都会地での出来事であると思っていたのですが、昨秋には隣の鳥取県で高校生による母親殺人事件が発生しており、いつそのような事件が近辺で発生しても不思議ではない状況です。

そうした中で教育界では、これまでの教育の在り方を反省し、二十一世紀を担う子供の『心の教育』の必要性を力説すると共に、先般の教育改革国民会議ではこれまでタブー視されてきた『教育基本法』

「雪化粧☆くつきり」

「☆」がくつきり。数日来的寒波で、江津市街地を見下ろす星高山(四七〇㍎)が雪化粧。

山腹にある直径約百㍎の星の形が鮮やかに浮かび上がった。

正の必要性を唱えています。

「教育基本法」は、戦後教育の基

本理念を戦前の反省も含めて個人

の尊厳、個人主義においています。

その個人主義が戦後教育におい

て誤って解釈され、自己中心主義、

利己主義となり、家庭や国家など

の共同社会における成員としての

在り方を考えたり、共同体意識が

養われることなく推移してきてい

るからだと思います。

その結果、本来ならば国民の誰

もがこぞって祝福する日と定めら

れた「成人の日」も単なる骨休め

の日と化し、各地でバラバラの成

人式も、祝福されるため出席した

新成人のマナーの悪さが、問題と

なる始末です。

さて、私たちが預かっておりま

す皆様の後輩達ですが、全体に「行

儀が悪い」との評判は払拭できま

せんが、私の見るところ「暖かい

ハート」を持っている者が多いと

思います。

その検証として今年度あつた事

実を記載させていただきますと、

まず、六月の初旬の高校総体遠征

列車中の出来事ですが、団体競

技の部活生徒が老婦人団体の方々

に席を譲ったことです。

このことは、後日ある人から私

宛に生徒へのお礼と学校の発展を

祈念する旨の励ましの手紙をいた

だいて分かりました。

次に、暑かった夏休み中のこと

ですが、三名もの生徒が二件の海

難事故にあつている人の人命救助

に活躍し、二学期の始業式に江津

警察から表彰されました。

また、三年前から行われている

ロボット相撲の大会では中国大会

で難攻不落の牙城を築いていた学

校を制覇して中国地区のチャンピ

オンになり、全国大会では三位、

四位に輝いた快挙もさることなが

ら、県大会下位で惜敗した生徒の

つぶやきが心の優しさを実によく

表しており、自分のリモコン操作

を悔いて「僕はロボットにすまな

いことをした」とたまたま傍にい

た私に聞こえ思わず目頭が熱くな

りました。

これらのことは、いかなる時代

でも人間として持ち続けなければ

ならない最も大切なことであり、

先述の様な憂うべき少年達の事件

が多発する中で、このような生徒

が本校にいることは本校の誇りで

あり、現在復活しつつある工業高

校での体験を通した真の学習に必

ずつながるものと確信します。

本校は、開校以来六十六年を迎

えるところで、地域に根ざし

た特色ある学校づくりが要求され

る時代でもあり、体験的な学習内

容を一層充実し、県西部の工業教

育の拠点校として、実践的な技術

を身に付け、心のこもったものづ

くりができる技術者を育成するこ

とを教育目標としております。

今後とも母校に対する一層のご

支援を頂きますようお願い申し上

げます。

最後になりましたが、会員の皆

様の益々のご活躍とご健勝をお祈

り申し上げます。

本校に赴任して

教頭 金山 幸三



江工会会員のみなさまあけてましておめでとうございます。

二十一世紀の幕

開けにあたりこの世紀の皆様方にと

とって、幸多き世紀でありますこと

とを祈念いたします。

私は出雲工業高校の校長にご栄

転されました植田教頭先生の後任

として平成十二年四月に赴任して

まいりました。

私は益田市に生まれ益田市で育

ちました。学校を卒業してからも

益田市での勤務が長く、人生五十

三年間のうち三十九年間を益田市

で過ごしました。

本校は大変伝統のある学校だと

聞いています。私達が高校に進学

する年に本校を母校とした益田工

業高校が開校しました。それ以降

は益田から本校に進学する人は減

りました。私達の先輩には本校

に進学し益田から通学された方が

多数おられます。本校に転勤が決

まったときに、本校を卒業され益

田在住の方に「江津工業高校はど

うでしたか」と伺いましたら「伝

統があり質実剛健の校風であると

懐かしそうに語っておられました。

私の勤務先が本校になったことを

伝え聞いた同期の教員の年賀状に

「初任が本校であり、そのときに

は二十一クラスあった。」と書い

てありました。少子化・生徒数減

で学科改編の完成年度には三学科

三学級九クラスの学校になります。

二年生からはコース制をとり、専

門教科は一クラスを二つに分けて

授業を行います。二十一クラスあ

たときと同じ施設を半数以下の生

徒で使う今の生徒は大変恵まれて

いると言えます。

先日聞いた話ですが団塊の世代

が思春期の時代(昭和四十年代前

半)に「日活」と「松下」の株価

がほぼ同じであったそうです。映

画とテレビドラマの戦いであった

のですが、団塊の世代がテレビを

選んだのが一方を斜陽産業へと追

い込み、他方は国を代表するよう

な大企業にさせたのだそうです。

高度成長経済は裕福(便利さ)

の追求でありました。私達の高校

時代には「アメリカでは大学を卒

業して半年もすると中古車ではあ

るが車を所有することができると

また、私達が大学を卒業するころ

(五年後)には、日本もそのよう

江工会 支部だより

二十一世紀の 新たな出発



関東支部長 森山 征夫 (昭和37年機卒)

この度、江工会

関東支部の支部長を本年(平成十

二年)の二月の支部総会にて正式

にご承認頂き、新役員と共に新し

いスタートをしてから瞬く間に九ヶ

月が過ぎ去りました。新しい活動

の基本方針に基づき今日まで計画

の実現を行っておりますが、それ

らを述べる前に、原田前支部長と

前幹部の偉大なる業績に対し、こ

の紙面をお借りして、一言、賞賛

と感謝の言葉を申し上げたいと思

います。

江工会関東支部の長年にわたる

限定的な活動の期間は、橋本(A

一六)・安田(A二六)の両先輩

によりご苦勞を重ねつつも支部の

継続性が保たれました。そして平

成六年、江工会関東支部の「中興

の祖」とも言うべき原田(A三三)・

笠井(C三三)の両先輩の再生キャ

ンペーンにより役員が選出され、

その二期六年の任期中、会員名簿

の作成から始まり、毎年の支部総

会の開催、ゴルフ等のイベントの

開催が恒例となりました。その中

には大変好評だった石見神楽の披

露もありました。更に、その任期

中、特に小田原(A三三)先輩は

事務局として、経理、連絡事務を幾

たにも犠牲にして貢献されました。

また、その二期六年の任期中、江工会の本部からの多大なるご支援、母校江津工業高校から校長先生自らによる最新情報の報告を頂くと共に、関西支部との友好的な交流も行つて参りました。

さて、われわれ新役員は、「継続性」を保つことが如何に大切かを肝に銘じつつ、基本方針、年度別活動方針、年間活動計画を作成しました。昨年平成十二年は、既に、二月の支部総会に引き続き、新会員（新卒）の歓迎会を五月に、六月に春のゴルフコンペ（千葉県）、十一月に一泊付きゴルフコンペ（群馬県）で行い、予想を越える新規の参加者もあり主催者側として心から感謝しております。現在は、会員名簿の更新に集中し、本年（平成十三年）二月十日の支部総会の準備をしております。

前述の基本方針について、昨年二月の支部総会で紹介させていただきましたが、時間の都合で十分真意をお伝えできませんでしたので、以下に説明させていただきます。

(一)組織の拡大と固定化

過去の統計から、機械科出身の会員参加が少ないこと、四十才代以下の会員の参加が極めて少なく、女性会員の参加が皆無であることから、その有効的対応策を早急に講じる状況に迫られております。機械科卒の私が実力者の揃っている建築科出身者を差し置いて



平成12年度関東支部総会 (H12. 2. 20)

て支部長の指名を受けましたのも、その対応策への布石があったものと自覚しております。まず出発点として会員名簿を更新し、新しい通信手段を利用した連絡網を作り、双方方向の対話型の会員コミュニティを創生したいと考えています。これは、電話・FAXを今までどおり使用し更に電子メールやホームページの利用による連絡網のことに意味します。いわゆるサイバー又はバーチャルコミュニティです。会員の意見、各種の連絡、案内、提案、役員の名簿、連絡先、役員会の議事録などは、すべて会員が簡単にアクセスでき、運営のオープン化を図りたいと考えています。

(二)活動の多様化

新たな通信手段と既存の通信手段をフルに活用して、役員は「黒子」に徹し、仮想的、そして物理的な「場」と「機会」の提供を行いたいと考えています。そのようなコンセプトと組織の運営基盤により、「参加型」の江工会関東支部が出来ると確信しております。

そうです、今こそ、会員皆さまが「主役」であり、あなたの「一番」なのです。二十一世紀を迎える今日の世相、社会、経済などすべての分野で変化が起き、それぞれに対して個別の対応が迫られる時代です。それらは多様性、複雑性故に将来が予測できません。たぶん、競争の時代から共生の時代への大きな変化のウネリの中で生きているのでしょう。このような時代であればこそ、江工会を一つの仲間作りの親睦の手段、異業種交流の場として十分利用して頂ければ幸いです。何故なら、絶対に消すことが出来ない一つの「共通した過去」、縁あって、ある時ある場所と共に学んだということ、江工会の存在理由を形成し、会員の資格を持つているのですから。

私は、江工会関東支部の支部長として、以上のような考えで、混迷が予想される二十一世紀の初頭、江工会関東支部を運営する覚悟です。皆様のご協力ご支援を切にお願い申し上げます。

二十一世紀を迎えて



関西支部長 橋目福司 (昭和39年建卒)

郷を愛する心、先輩後輩の絆の強さ」が毎年欠かすことなく、支部総会を開催できたものと確信しております。

私が支部総会に出席したのは十五年前からと記憶しております。それ以前も案内は頂いていたのですが、なかなか出席出来ませんでした。

最初に参加したときの感想は、先輩の元気の良い迫力に圧倒されたことを今でも鮮明に覚えております。また、校歌を全員で合唱したときは松林の中での練習を思い出して大変なつかしく感じました。

前任の木村支部長は十年という長期にわたり関西支部の繁栄に尽力されてこられました。このご功績に紙面をおかりして支部会員を代表し感謝の意を表したいと思います。

厳しい社会環境下でパトナツチをした訳ですが、このような時こそ会員同士の連携を密にし、この不況を乗り切る事が重要な事と思えます。

今や情報化社会です。支部総会を『異業種交流』の場として各方面の情報を積極的に交換し、得た情報を生かして更なる活躍をして頂きたいと思えます。

また、関西支部では支部総会と共に新会員の歓迎会を行っていますが、ここ数年新会員の方の出席がないのが悩みの一つとなっております。是非とも新卒の方は一度出席して下さい。

支部の活動内容としては、年一回支部総会、親睦ゴルフコンペを三年三回、他に定例、臨時役員会を行っております。また、昨年より旧支部役員との懇親会を年末に反省



平成12年度 関西支部総会 (H12. 6. 11)

会を兼ねて開催しております。

新支部役員を紹介いたします。

支部長 橋目福司 (39年建卒)

支部役員 大本敏郎 (40年建卒)

藤井哲夫 (42年建卒)

丸山勝美 (42年建卒)

檜垣実雄 (42年電卒)

橋本克己 (42年建卒)

森川秀美 (44年建卒)

中村信夫 (52年化卒)

伊藤寿充 (63年電卒)

風早 昭 (41年建卒)

事務局 以上十名です。

今年からは支部役員若返りを計るべく五十代、六十年代卒の方に就任願ひ、若い意見を支部運営に反映し関西支部の活性化に努力したいと考えています。

また、各支部との交流を積極的に行い、江工会の繁栄に寄与したいと思えます。

最後に、江工会の会員皆様様の益々

のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

支部活動

二十一世紀への期待



山口支部長
山根 清 建
(昭和30年建卒)

皆様にはご健健にて新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

さて、今年からは二十一世紀、何かしら心のひき締まる思いがしているところであり、

二十世紀を振り返ってみますと、物心両面においてあまりの変わり様に驚いています。

特にテクノロジーの進歩には目覚ましいものがあり、戸惑いすら感じています。やたらと飛びかう横文字に振り回されているのが現状ではないでしょうか。

ハイテクだのアイティードのと最近では総理大臣までがアイティ、アイティの連発です。

最近のテレビでバイオテクノロジーの研究についての特別番組を放送していましたが、その中で二十一世紀には、クローン人間の可能性すら示唆してありました。この様な物象的変動の中で人の



平成12年度 山口県支部総会 (H12. 2. 20)

心が変わらないわけがなく、毎日の様に悲惨なニュースが流れていました。特に若い人達の犯罪が目立っていました。我々の青少年時代には考えられなかったことでもあります。さて、当支部の二十一世紀でありますが、山口県支部が発足して五十年になります。当支部は、今転換期にきていると思います。先に支部の活動状況について、江工会会報第三十一号でも述べておりますが、山口県支部は建築科出身者を中心として発足し、長い間この方々の狭い範囲での活動が進められて来たところでありました。その後平成の時代に入り、一地区集中で行なうた総会を県内を五ブロックに分け各地区持ち回りで行なうことになりました。その結果建築科以外の方も支部活動に関心をもち、持って頂ける様になり総会への出席も多数参加を見るようになりました。しかしながら一方で、発足当時この会の設立に携わってこられた建築科出身の方々も五十年も経ちますと高齢となられ支部活動もままならず総会へも欠席がちとなっております。昨年はこの支部の創設者ともいべき小林前支部長も永眠されました。加えて、当支部

者を中心として活動をして来た経緯があり、この県庁在職者も現在では少数となり、ここを中心とした活動が機能しがたくなって来たなど、今後に向けて活動方法を考えなければならぬ状況にあると思われまます。幸いにして、総会の地区持ち回り方式の導入などです。支部活動の改善も行なっているところですが、時代と共に会員の考え方、価値観にも大きな変化があり参加を呼びかけても「何のメリットがあるのか」、「参加にどの様な意味があるのか」などの意見もあり、また、まったく無視と言う会員もある中で、一度増加傾向にあった参加者も減少に転じている状況にあります。同窓会は、会員の年齢、環境はそれぞれ異なりますが同じ学舎で三年間を過ごし、同じ故郷を持つもの同士、思い出は一つではないでしょうか。この思い出を大切に語りあい、心を通わせながら助けあって生きて行く、これが同窓会の意義ではないでしょうか。メリットや、意味はどうでもよいのでは……。集まって語りあって、心を通わせあうことだけの、こんな活動であつても良いのではないのでしょうか。どうか二十世紀に忘れかけた心を今一度思い起こして欲しいと念願してやみません。

支部活動報告

彌栄支部長
岡 本 均
(昭和49年建卒)

彌栄支部は、発足して以来、十四年が経過しております。発足当時、会員も十数名と小人数ではあ

りましたが、最近では、母校の卒業生も村内に在任され、年を重ねるごとに、微増ではありますが、現在二十三名の会員となっております。年齢層も幅広く地域のリーダー格として、それぞれの分野で活躍しております。

支部の総会は、毎年二月に本部より江工会長、校長、事務局長をお招きして、支部の活動報告、決算、予算の審議、承認等を行っております。

第二部の懇親会においては、懐かしい母校の思い出や、近況報告を互いに語り合い、彌栄名物の「ジン鍋」に舌鼓し、最後に校歌や応援歌を全員で合唱し、支部の団結を誓っております。

また、夏には、新規会員の勧誘や会員相互の親睦の輪を深めるため、家族と同伴で、納涼大会を行っております。

最後になりましたが、江津工業高校の弛まない発展を祈念しますと共に、今後とも、支部の支援の程、よろしく願います。



彌栄支部総会 (H12. 2. 6)

部活動の報告

平成十二年度
生徒指導部

県高校総体

バレー部 一回戦 0-2 松江南

バスケット部 一回戦 49-74

ソフトテニス部(大社) 団体戦 ベスト8

一回戦 3-0 松江東
二回戦 2-0 出雲商
準々決勝 0-2 横田

個人戦
E2奥迫・S3張川組 5位
A3佐々木・E2林田組 ベスト16

M3重戸・A2三本松組 ベスト20
E3古谷・A2日高組 ベスト32

卓球部 団体 一回戦 3-2 益田工
二回戦 0-3 出雲西

個人 ダブルス 3回戦敗退
シングルス 5回戦敗退

陸上部 決勝進出ならず

水泳部 男子50m自由形 8位 高橋
女子800m自由形 6位 川上

男子400mR 4位

ボート部 男子ダブルスカルA 1位 河野・吉本

男子ダブルスカルB 2位 岩成・森本

男子シングルスカル 1位 佐々木

弓道部

男子団体 予選敗退
男子個人 S2伊藤3回戦進出
女子団体 予選敗退
女子個人 A3川島3回戦進出
S3上野3回戦進出

サッカー部

2回戦 0-4 開 星
ワンダーフォーゲル部
団体 5位
個人クライミング競技

野球部

全国選手権鳥根大会
2回戦 12-2 松江東
3回戦 0-8 出雲北陵
秋期中国県予選
一次大会 10-0 松江西
二次大会 1-5 松江北

中国高校選手権

ソフトテニス部(鳥取)
E2奥迫・S3張川組 三回戦
A3佐々木・E2林田組 二回戦
M3重戸・A2三本松組 二回戦

水泳部

男子50m自由形 高橋予選敗退
女子800m自由形 川上予選敗退
男子400mR 予選敗退

ボート部

男子クオドルプル 5位
(宇津・岩成・東・出江・森本・前田)
男子ダブルスカル 2位
(吉本・濱本)
男子シングルスカル 2位 高野

全国高校総体

ソフトテニス部(岐阜)
E2奥迫・S3張川組
一回戦 4-2

二回戦 4-2
三回戦 3-4

ボート部

男子ダブルスカル 5位
(河野・高野)
男子シングルスカル
準々決勝 3位(佐々木)

富山国体

男子ダブルスカル準決勝
4位(河野・佐々木)
男子シングルスカル
5位入賞(高野)

全国高校選抜

ボート部(天竜市)
男子ダブルスカル4位
(河野・高野)

放送部

県総文祭放送部門地区大会出場
写真部
島根県高等学校写真展
奨励賞 4点
(福井・山崎・岡田)



作品名〈輝く屋根〉

情報電子部

島根県高校ロボット相撲大会
自立型の部 優勝・準優勝
ラジコン型の部 準優勝
ロボット相撲大会中国地区予選
高校生の部 優勝

全日本の部 3位・4位
4位・8位
高校生ロボット相撲全国大会
自立型の部
3位(佐々岡・川野)
4位(武田・竹下)

全日本ロボット相撲全国大会
(東京両国国技館)
自立型の部 best 64
自動車部
ホンダエコノパワー九州大会
江工B 4位

江工A 7位
JRC部
赤い羽根共同募金運動参加
JRC石見ブロック合同研修会

工友会だより

総会および
研修旅行について

毎年の工友会総会と研修旅行を楽しみにしながら好天気
の九月二十日を迎える。江工
校門を定刻の七時に貸切りバ
スは出発。途中参加の先生方
が次々と乗られ浜田市内を経
由、浜田自動車道に入る。大朝
と広島北で更に乗車、全員の十
五名が揃う。山陽自動車道に入
り総会が開かれる。平田先生の
司会、益子原会長挨拶の後議事
に入り事務局から提案の通り承
認される。今年、学校や女性
会員の参加が無くいささか寂し
さを感じる。

PAで小休憩、世界一の斜張橋、
多々羅大橋を背景に記念写真を
撮る。この橋を境に広島県から
愛媛県の大三島になる。ここで
まず大山祇神社に参拝。宝物殿
には国宝や重要文化財の指定を
受けた武具類の全国の約八割が
収蔵されており、その量、質、
細工の緻密さ内容等の素晴らし
さに圧倒される。昼食後再び南
下、本四連絡橋の先駆者の大三
島橋、続いて日本初の補剛桁桁
吊橋の伯方・大島大橋を経て大
島を通過、愈々世界初の三連吊
橋の来島海峡大橋で計九つの橋
を渡って四国に入る。



第17回 工友会総会 (H12.9.20)

バスは山陽自動車道を快調に
東進し、福山西ICから瀬戸内
しまなみ海道(西瀬戸自動車道)
に入る。まず新旧二つの斜張橋
の新尾道大橋を渡り、対岸の尾
道の街並と景色を眺めながら向
島を南下、次に本四連絡橋で最
初の吊橋、因島大橋を通過、三つ
目、日本初の複合桁斜張橋の生
口橋を渡り生口島北ICから在
来の国道三二七号線を海岸沿い
に走る。島の斜面は勿論周辺に
は各種の柑橘類が所狭しと植栽
され、漁港や民家の軒先を曲が
りながらの走行で島の暮らしや生
活の匂いを感じられる。瀬戸田

伊予の国、最初の研修地、今
治市、全国的にも稀な海水を堀
に引き入れた海岸平城の今治城
である。天守閣からの展望、展
示室、更に隣接の美術館などを
見学の後、再び国道三二七号線
を走り奥道後から目的地道後温
泉の宿泊所「にぎたつ会館」に到
着する。まずは一服、入浴後宴
会に入る。情報交換等のうち宴
も酣、カラオケが盛り上がり歌
がこの様に楽しいものかと歌唱
力を新たに確認された方もある。

翌朝は全員、満ち足りた顔々。
朝一番、四国霊場第五一番札所
の石手寺に参詣、美しく均整の
とれた国宝の楼門、重文の本堂、
五輪塔などを拝観、続いて子規
記念博物館、古の雄姿を見せる
杉山城を左に眺めながら市内の
伊予かすり会館等の見学に向う。
帰路は国道一九六号線を内海沿
に走り、再びタオルの街今治市
に戻る。地場産プラザの見学、
タオル製品等沢山の土産物を手
に瀬戸内しまなみ海道に入る。
途中、亀老山展望台(日本サイ
ンデザイン奨励賞受賞)で三六
〇度の展望、平山郁雄美術館で
は瀬戸田で生れ育った現代日本
画家の巨匠の人柄、世界的な文
化活動、素晴らしい作品等に接
し感銘を受ける。逆方向からの
橋、島々や景色を眺めながら定
刻無事に帰校する。益子原、平
田両先生のご配慮に感謝し、会
員皆様の健康と来年の再会を祈
念し旅行記とする。(坂井弘数記)

「ロボット相撲

全国大会3位・4位入賞

情報電子部 部長

電子情報科2年 竹 下 剛

剛

僕達にとって、昨年は忘れられない1年となりました。

僕達情報電子部は日頃、「電子回路」や「コンピュータ・プログラミング」について学んでいます。その発表の場として「相撲ロボット」の製作に取り組みようになりました。「ロボット相撲競技」は、154cmの円形土俵の上で20cm×20cm、重さ3kgの小型ロボットを対戦させる競技です。ロボット競技としては世界一の競技人口を誇り、今年の全日本大会には全国の工業高校、高専、職業能力開発短大、工業大学、クラブチームや企業から地区予選を含め3970チームのエントリーがあったと聞いています。僕達が主につけている「自立型」のロボットは、ロボット自身が知能を持ち自らが判断し相手を追いかけます。

「ロボット競技は、工業高校の技術力とプライドをかけての戦いだ。お前らの活躍でうちの学校の技術力が判断される。」と、先生から繰り返しプレッシャーを掛けられ、頑張ってきました。

今年最初の大会は、9月に広島でおこなわれた「全日本ロボット相撲大会中国地区予選」です。会場はスポーツさながらの熱気にあふれ、「頑張れ!」、「攻めろ!」などの声援が飛び交います。最初の大会なので、実際のところ勝てるかどうかわかりませんでした。しかしその不安もすぐに取り払われ、僕達

のロボットは快進撃をしました。優勝、3位、4位に入賞し、全国大会のキップを手に入れました。島根県から中国予選を突破し全国大会へ出場するのは初めてのことで、松江や出雲、益田などの県内の先生方からも祝福していただきました。10月終わりの県大会では江津工業同士の決勝戦となり、11月に四国でおこなわれる高校生全国大会へは必ずみを付けます。高校生全国大会は11月12日、徳島県郷土文化会館のステージでおこなわれました。ここでも、僕達の快進撃は続きます。優勝は逃しましたが、初出場ながら3位、4位に入賞し、「闘争」、「小結」の称号を頂きました。最近の相撲ロボットの主流はバキュームポンプを搭載して土俵に強く貼り付けて踏ん張りの効いた押しを得意とする強力バキューム型と言われるロボットで、力士で言うと「武蔵丸」のようなタイプです。それに対抗して僕達のロボットは、スピードが速く相手の横や後ろへ回り込み技で勝負する高速型と言われるロボットです。力士で言うと「舞ノ海」のようなタイプでしょう。高速型ロボットは、今まで強力バキューム型ロボットに勝てませんでした。でも、難易度が高いと言われているリトライ・モードを完成させることによって、他校の強力バキューム型ロボットを撃破することができたので

マの中で、鍵のかかった密室のドアを開こうと何度も勢いを付けてドアを突き破るといったシーンがよくあります。この、ドアが開かなければ一旦ドアから離れ勢いを付け再アタックする。相手ロボットを押し出すことが出来なければ、一旦相手ロボットから離れ勢いを付け再アタックする。これがリトライ・モードです。リトライ・モードは一見簡単そうに思えるかもしれませんが、しかし、かなり難しい技術のようで、現在高校生でこれを実現しているのは僕達だけなのです。



情報電子部部長 電子情報科2年 竹下 剛

全日本ロボット相撲全国大会会場にて (東京両国国技館12月23日)

リトライ・モードは、ロボットに内蔵しているコンピュータとセンサで自分や相手の土俵での位置を常に把握し、どのように相手を攻撃したら良いかを適切に判断し

ながら闘わなくてはなりません。リトライ・モードは劣性を一瞬にして優性に変えることもできます。僕達の快進撃の秘密はこのリトライ・モードにあります。僕達のロボットは、大会No.1のスピードと高校生では唯一のリトライ・モードを駆使した俊敏な動作で、会場いっぱいのお客様を沸かせました。大会後、ロボット関係のインターネット掲示板では、僕達のロボットを高く評価していただいています。

僕達は夏休みも返上で頑張ってきました。また、先輩や先生方に激励していただいたおかげで県大会優勝、中国地区予選優勝、全国大会3位・4位入賞という結果を残せたのだと思います。応援してくださった先生方、先輩、本当にありがとうございました。来年度

更には、何ともいえませんが、更に頑張っていきたいと思っております。応援よろしく願います。



全日本ロボット相撲全国大会出場ロボット「南風」(左)「Deuce」(右)

平成12年度 本校生徒資格試験取得状況

試験名称	受験者	合格者	合格率
計算技術検定3級	132	78	59.1%
計算技術検定2級	63	8	12.7%
計算技術検定1級	5	2	40.0%
情報技術検定3級	119	74	62.2%
情報技術検定2級	52	32	61.5%
情報技術検定1級	5	4	80.0%
機械製図検定	36	8	22.2%
2級ボイラ技士	12	6	50.0%
ガス溶接技能講習	60	58	96.7%
乙種危険物取扱者試験	409	192	46.9%
第2種電気工事士試験	29	20	69.0%
工事担任者アナログ3種	35	13	37.1%
工事担任者デジタル3種	6	6	100%
ワープロ検定3級	8	8	100%
小型車両機械運転業務	44	44	100%
高所作業車運転業務	23	23	100%

進路だより

—二十一世紀も厳しい—

新聞等では企業の業績はアップしているとはいえないものの、依然として先行き不透明な状態が続いています。株価の低迷など二十一世紀に向け明るい話題がない状況に若者の希望は薄れるばかりです。

高校生の就職状況も昨年とほぼ同様で、回復の兆しが見えませんが、しかし、工業高校の就職率はさほど悪くないというのは喜ばせてくれる救いです。

どうなる 日本！
今年度の進路状況を報告します。

主な就職内定先 (順不同)

(県内)

半田組・小笠原設計事務所・毛利組・トップ金属・木原建築工房・森下建設・中央建設・グリーンモーター・青木組・佐藤企業・協和木工・浜田港運・第一希元素・マルハマ食品・平和金属・石央森林組合・島根電機・大和ラジエータ・江津石油・帝国電線・イワミ村田製作所・今井産業・八興電気・西日本海合板・松崎製作所・川野建設・サンデン・サン電子工業・大和紡績・北陽警備・内村電気・中国電力・企業警備・出雲大社・イワモト総合保険・島根電子・浜田電子・日本ケーブルシステム

(県外)

阪南理美容・田嶋石油・日拓エンタープライズ・進藤建設・杉本製作所・神戸製鋼所・虹技姫路・三菱重工業高砂・マツダ・ニチメンエネルギー・コスモ石油・リライアンス・共同シャフト・イトー・キョーラク・広島総合警備・大王

製紙・日本鋼管福山・竹井興産・トヨエ電機工事・カワタ・金井重要工業・久保田鐵工所・光友・常石造船・三菱・敷島製パン・神光ブリキ印刷・グロリー商事・トヨタ自動車

進 学 先

(4年制大学)

福山大学・九州共立大学・広島国際学院大学
(短期大学)
ポリテク島根・神戸文化短期大・広島国際学院大学自動車短期大学
他専門学校

地域別内定状況

地 域	平成12年度
県 内	63%
中 国	12%
関 西	16%
関 東	4%
その他	5%

年度別就職状況一覽 (H13年1月現在)

年 度	求人会社数	就職者数	内定率
8年度	647社	116名	100%
9年度	695社	112名	99%
10年度	565社	100名	91%
11年度	289社	82名	90%
12年度	286社	107名	92%

※12年度進学希望者数 34名

平成11年度 江工会一般会計決算書

[1] 収入の部

科 目	本年度予算額	本年度決算額	増 減	摘 要
1. 繰 越 金	316,634	316,634	0	平成10年度一般会計より
2. 会 費 ・ 入 会 金	1,566,000	1,535,772	△30,228	在校生積立金
3. 寄 付 金	10,000	50,000	40,000	個人2件、団体1件
4. 繰 入 金	0	0	0	
5. 雑 収 入	366	145	△221	預金利息
収入合計	1,893,000	1,902,551	9,551	

[2] 支出の部

科 目	本年度予算額	本年度決算額	差 引	摘 要
1. 事 業 費				
工業教育振興費	90,000	90,000	0	体振、生徒会、島工研
会 報 発 行 費	170,000	200,000	△30,000	江工会会報34号印刷費
記 念 品 費	50,000	35,437	14,563	卒業生へ卒業証書用丸筒
会館運営費助成	150,000	150,000	0	江工会館運営会計へ
2. 管 理 費				
通 信 費	60,000	52,485	7,515	案内状、会報発送、他
印 刷 費	10,000	8,500	1,500	年賀状印刷
消 耗 品 費	10,000	0	10,000	
旅 会 費	550,000	418,534	131,466	支部訪問、他
議 費	250,000	180,000	70,000	本部総会・支部総会出席
慶 弔 費	50,000	32,165	17,835	祝電、弔電、御祝、香典等
雑 費	120,000	110,022	9,978	広告料、謝礼、饌別、他
3. 積 立 金	200,000	250,000	△50,000	江工会積立金へ
4. 予 備 費	183,000	0	183,000	
支出合計	1,893,000	1,527,143	365,857	

収入総額1,902,551円－支出額1,527,143円＝差引残額375,408円

事務局だより

二〇〇〇年(平成十二年)

二月六日 弥栄支部総会

岡本均支部長(建49年卒)会員十五名の出席、本日より高橋次郎会長、神田義克校長、菅森寛志事務局員出席

二月十五日 江工会報第三十四号

を発行(三千五百部)卒業生、在校生、現旧職員、江工会員、各支部等に配布する。母校と卒業生の皆さんを結ぶ唯一の情報源です。入用の方は母校事務局までご一報ください送ります。

二月二十日 関東支部総会

原田光政支部長はじめ会員八十

数名の出席で、郷土芸能「安来節」とどうしよう「掬い」で賑わいました。原田支部長が勇退された。森山征夫氏(機37年卒)が新たに支部長に就任されました本部から高橋次郎会長、植田恵孝教頭、佐々木一郎事務局員が出席

二月二十日 山口支部総会

山根清建支部長はじめ会員四十数名の出席でした。本部から、砂田忠副会長、神田義克校長、高月進事務局員が出席

三月二日 新卒者江工会入会式

建築科三十五名、機械科三十六名、電気科二十七名、電子情報科三十六名の新卒者に江工会への入会式を行い、講演講師として西谷茂氏(建34年卒、江津市

水道局局長)に「己が誇りをもてる人生を」と題して講演をいただき、特に講演の終わりに「どうしよう「掬い」の実演おどりを披露していただき、とっても印象に残る入会式となりました

三月二十八日 市役所支部送別会

十二年三月をもって、有田康人氏、森脇一郎氏、西谷茂氏、近重信也氏の四名の方が勇退されました。永年のご奉職に對しまして深甚なる敬意を表します。本

五月十六日 江工会館運営委員会

十一年度事業、決算報告、十二年度事業、予算案審議その中で



熱演する西谷茂氏

会館も築後十六年を通過し痛みも来ているので今後計画的な管理体制を取るよう指摘を受ける

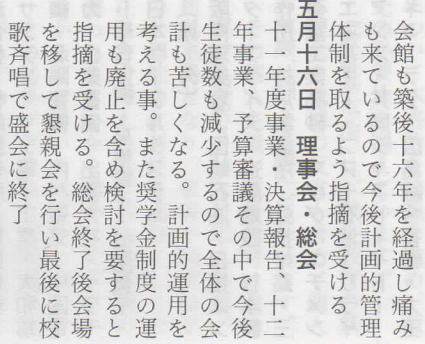
五月十六日 理事会・総会
十一年度事業・決算報告、十二年事業、予算審議その中で今後生徒数も減少するので全体の会計も苦しくなる。計画的運用を考える事。また奨学金制度の運用も廃止を含め検討を要すると指摘を受ける。総会終了後会場を移して懇親会を行い最後に校歌斉唱で盛会に終了

六月十一日 関西支部総会
木村健(建33年卒)支部長はじめ会員七十数名の出席で、山崎禎次(建51年卒)さんの熱唱で会は盛会でした。木村支部長がご勇退され、新支部長に橋目福司氏(建39年卒)が就任されました。本部より高橋次郎会長、神田義克校長、佐々木文人事務局長が出席

十月二十一日 機三十五年卒同窓会(三十年会)
恩師、松井邦友・盆子原良友両先生出席のもと二十五名の参加で京都市にて開催

十一月四日 機三十五年卒同窓会(石松会)
恩師、松下滋夫・山下 順・野津 治・盆子原良友先生の出席のもと二十三名の参加で美又温泉にて開催

十一月二十四日 機三十四年卒同窓会(五九童会)
恩師、盆子原良友先生出席のもと二十六の参加があり箕面市にて開催



市役所支部 (H12. 3. 28)

訃報

謹んでお悔やみ申し上げます
(平成12年1月12日)

旧職員のご逝去
奈良井国雄(教頭)
塩谷 法梁(英語)
飯田昇太郎(木工・機械)

会員の逝去
田中 裕之(工化49年卒)
古川 心土(工化54年卒)
坂根 広光(木建15年卒)
上部 貞夫(機28年卒)
江川 近雄(木工16年卒)
尾田 和志(電56年卒)
大原 一郎(工化51年卒)
小林 輝男(建20年卒)
小川 博昭(建46年卒)
小笠原徳美(木建15年卒)
中村 孝行(機31年卒)
川瀬 典男(電44年卒)
福井 敏勝(機34年卒)
大倉 敬司(併中24年卒)
甲村 直人(機34年卒)
(事務局で把握できた方のみ)

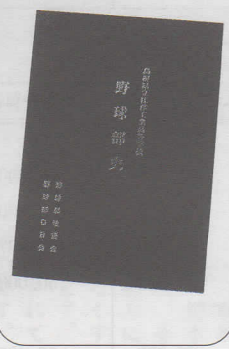
お知らせ

創部五十周年記念
野球部史発刊

・体裁 A4版 320ページ
・部数 200部(限定)
・価格 8,000円
・内容 各大会の戦績を全掲載

※購入希望者は今すぐ下記へご連絡下さい。
江津工業高等学校内 野球部OB会事務局
TEL(0855)52-2120

編集後記



多忙な中をご寄稿いただいた皆様方にまずもって厚くお礼申し上げます。

会報も師走に入ってから原稿依頼で、あわただしく編集・校正と日頃の怠慢がたり満足はいく情報にならず反省しております。

二、三、記後半は科学技術の発達

と飽食の時代でした。そして今年二十一世紀を迎えた今、このままの状況下で進歩発達したとして、どんな世の中になるのだろうか。二十年後には私たちが人間には、もうこれ以上望むものはなくなるのではないだろうか。

二十一世紀はもっと心のいやされる環境、自然を愛する心を大切にすること、意識の改革が世界をあげて取り組むことが最優先されることを切に願わずにはいられません。

事務局員としても、会員の皆様との連携を密にしたいと思えます。皆様のご意見・ご要望等ありましたらご連絡下さい。

江工ホームページアドレス
www4.justnet.ne.jp/~goutu-in/

平成12年度 江工会一般会計予算書

【1】収入の部

科 目	本年度予算額	昨年度予算額	増 減	摘 要
1. 繰越金	375,408	316,634	58,774	平成11年度繰越金
2. 会費・入会金	1,440,000	1,566,000	△126,000	在校生積立金(400人分)
3. 寄付金	10,000	10,000	0	
4. 繰入金	0	0	0	
5. 雑収入	592	366	226	預金利息、等
収入合計	1,826,000	1,893,000	△67,000	

【2】支出の部

科 目	本年度予算額	昨年度予算額	増 減	摘 要
1. 事業費				
工業教育振興費	20,000	90,000	△70,000	島工研
会報発行費	200,000	170,000	30,000	江工会会報35号発行
記念品費	50,000	50,000	0	卒業生へ卒業記念品
会館運営費助成	150,000	150,000	0	江工会館運営会計へ
2. 管理費				
通信費	60,000	60,000	0	案内状、会報発送、他
印刷費	10,000	10,000	0	年賀状印刷
消耗品費	10,000	10,000	0	紙代、お茶、他
旅費	500,000	550,000	△50,000	支部訪問、他
会議費	250,000	250,000	0	本部総会・支部総会出席
慶弔費	50,000	50,000	0	祝電、弔電、御祝、香典等
雑費	120,000	120,000	0	広告料、謝礼、餞別、他
3. 積立金	200,000	200,000	0	江工会積立金
4. 予備費	206,000	183,000	23,000	
支出合計	1,826,000	1,893,000	△67,000	